

## 農業技術センターニュース

目次			
優良系統イチゴ「久留米62号」の特性	… 1	オランダ長期研修報告	… 4
オオバの農薬作物残留試験の取り組み	… 2	オランダ長期研修報告	… 5
1割着色時に収穫したカラーピーマン果実は光照射により着色が促進される	… 3	普通期栽培水稻の有望系統「西南136号」の特性	… 6

### 優良系統イチゴ「久留米62号」の特性

写真2 果形

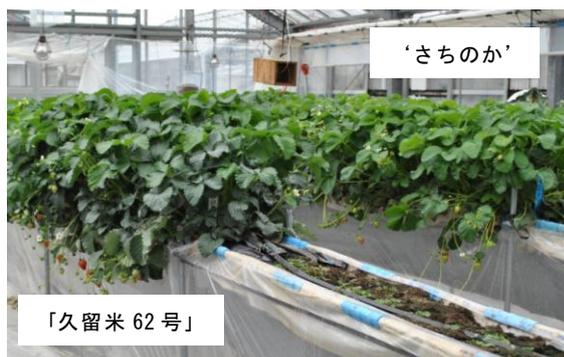


写真1 栽培の様子 (4月下旬)

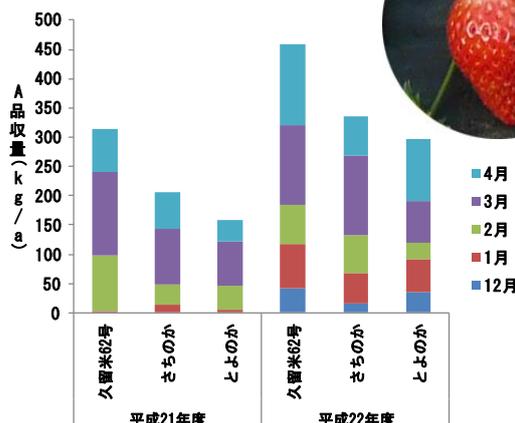


図 品種・系統別のA品収量



「久留米62号」は、独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センターで育成されたイチゴの新しい系統です。平成21年度から2年間、高知県における系統適応性検定試験を行った結果、優良系統と判定しましたので紹介します。

「久留米62号」の最大の特徴は、うどんこ病に対して高い抵抗性をもつことです。定植初期の草勢は「さちのか」と同等ですが、収穫後期の草勢は強く、草丈は高く、葉は大きく、果房長は長いです(写真1)。頂花房の平均開花日は「さちのか」に比べ7日程度遅く、株ごとのばらつきは「さちのか」並でした。果形は円錐形で、果皮色は

「とよのか」と同じ明赤色です(写真2(独九州沖縄農業研究センター曾根氏提供))。「さちのか」と比べ糖度と酸度は高く、食味は同等以上で優れていますが、果皮は少し軟らかいです。また、収量特性は「さちのか」および「とよのか」と比べA品収量、総収量ともに優れていました(図)。

「久留米62号」は、うどんこ病防除がほぼ必要でないため減農薬栽培が可能であり、高付加価値品種としての利用が期待されます。ただし果実が軟らかいため、市場出荷にはやや不向きであることから、観光農園などに向いていると思われます。

(園芸育種担当 細美祐子 088-863-4916)